

会期中の併催イベント

ノーベル化学賞受賞記念講演会

日時：3月27日(日) 10:00-11:30
会場：S1会場(10号館10-41教室)

プログラム

10:00-10:05 会長挨拶

① 10:05-10:20 鈴木 章(ビデオ講演)

② 10:30-11:30 根岸 英一

参加費：無料。年会参加登録者に限る。

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込み不要。直接会場へお越し下さい。※S2会場(10-42教室)にもS1会場の映像及び音声を流します。なお、S1会場は定員(約500名)になり次第締め切ります。

会長講演・表彰式

日時：3月27日(日) 13:40-15:20
会場：S3会場(16号館セレストホール)
13:40-14:10 会長講演「知の統合と細分化における科学の夢と化学のプレゼンス」平成22、23年度会長 岩澤 康裕
14:20-15:20 表彰式

スプリングコンサート2011

日時：3月27日(日) 16:00-17:00
会場：S3会場(16号館セレストホール)
化学オーケストラ：日本化学会会員を中心に、広く化学関係者で2002年に結成された団体で、日本化学会春季年会会期中に「スプリングコンサート」を毎年開催しています。今回は、誰もがよく知っている楽しいクラシック音楽をご用意し、春らしさを満喫していただきます。
曲目：モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲、ブラームス/ハンガリー舞曲集、ビゼー/歌劇「カルメン」第一組曲、J.シュトラウスⅡ/美しく青きドナウほか。
参加費：無料

懇親会

日時：3月27日(日) 18:00-20:00
会場：2号館地下演習室(神奈川大学横浜キャンパス内)

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生参加費は低く抑えておりますので、ぜひ一緒にご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般5,000円、学生2,500円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

ATP交流会

Advanced Technology Program 2011

化学の『夢』を共有し実現する出会いの場：『ATP』を
みんなで育て、革新的な成果に繋がる新たなシーズを育もう!

- 産学の将来の夢とニーズを紹介!
- 将来の夢に繋がり得る最先端シーズを提供!
- “シーズとニーズの出会い”および“異分野の人との出会い”により加速される“深化”と“進化”そして“新化”への新たな展開!
- 仕上げはのどをうるおしながら、次につながる交流を!

日時：3月28日(月) 18:00-19:30
会場：19号館地下1階LUX(神奈川大学横浜キャンパス内)

ATP講演会場やポスター会場でのディスカッションや交流をフォローアップする場として、「もっと突っ込んだディスカッションをしたい」、「今後の協働の可能性を確認したい」、「人脈を広げたい」といった皆様のために、ATP交流会を開催します。今回は会場内にATPポスター発表を併設し、ドリンクや軽食片手にフランクな雰囲気で見ながらのディスカッションや交流もできます。異業種間や産官学間の交流やネットワーク形成につながる絶好の機会ですので、奮ってご参加下さい。イノベーション創出に向けたシーズとニーズ、そして将来の共同研究や事業展開など、のどをうるおしながら大いに語り合いたしましょう。

参加費：無料

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込み不要。直接会場へお越し下さい。

目指せ未来の科学者 ～やってみよう!理科実験～

日時：3月26日(土)
1) 10時、2) 11時30分、3) 13時10分、4) 14時40分
会場：SG会場23号館8階実験室

日本化学会第91春季年会(2011)実行委員会では、小・中学生に化学の面白さを発見してもらえるように本企画を設けました。普段何気なく使用している日用品を用いた実験を通して、化学を身近なものに感じてもらえる内容となっております。会員各位ご関係の方に是非ご参加をお勧め下さい。

プログラム

① 10:00-11:00 実験内容A

② 11:30-12:30 実験内容B

③ 13:10-14:10 実験内容A

④ 14:40-15:40 実験内容B

※実験内容

A:「シャボン玉を浮かべてみよう!」&「水の上を動く紙船」

B:「冷却パックを作ろう!」&「身近なものを使った水の電気分解」

対象：小学生・中学生

参加費：無料ですが、完全予約制となっております。

申込方法：「3/26理科実験」と題記し、希望時間帯(第3希望まで)・氏名・学年・住所・電話番号を明記の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 理科実験担当者

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

市民公開講座 ～科学者たちの未来への挑戦～

日時：3月26日(土) 13:15-17:00
会場：S1 会場 10号館 10-41 教室

日本化学会第91春季年会(2011)実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回も市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

- 13:20-14:10 宇宙での生命科学実験—過去・現在・未来—
(東大・名誉教授) 浅島 誠
- 14:10-15:00 史上最大の新興スタチンはこうして生まれた
(バイオファーム研究所・所長) 遠藤 章
- 15:20-16:10 顔学への招待—コンピュータで探る顔の秘密—
(東大名誉教授/日本顔学会会長) 原島 博
- 16:10-17:00 マラリア対策用オリセットネット(蚊帳)
(住友化学農業化学品研究所) 伊藤高明

参加費：無料。※お土産あり(最終講演後にお渡し予定)

申込方法：事前申込み不要。当日会場にて受付。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

付設展示会

主催：(社)日本化学会

協力：(株)化学工業日報社

後援：日本科学機器団体連合会・(社)日本分析機器工業会・
日本薬科機器協会・(社)日本試薬協会

日時：3月26日(土)～28日(月) 10:00-17:00

会場：13号館

参加費：無料

出展社：(1月20日現在)

RSC(英国化学会)、(株)IDX、朝日分光(株)、アジレント・テクノロジ(株)、アステック(株)、アドバンスソフト(株)、(株)アドバンテージ・サイエンス、(株)アントンパール・ジャパン、インフォコム(株)、米国法人 Wavefunction, Inc.、ウシオ電機(株)、エーエムアール(株)、(有)エービーエフ、(株)エヌ・ティー・エス、NPG ネイチャーアジア・パシフィック、(有)MFC テクノロジー、(有)エル・エイソフト、(株)エル・エム・エス、エルゼビア・ジャパン(株)、オーシャンフォトニクス(株)、大塚電子(株)、オックスフォード大学出版局、オプトシリウス(株)、化学オリンピック日本委員会、(独)科学技術振興機構、(株)化学工業日報社、(社)化学情報協会、(株)化学同人、カクタス・コミュニケーションズ(株)、関東化学(株)、(有)桐山製作所、クツワ産業(株)、グレースジャパン(株)、(株)グローブボックス・ジャパン、(株)講談社、光明理化学工業(株)、コクヨ S & T(株)、コニカミノルタセンシング(株)、コバレントマテリアル(株)、コンフレックス(株)、サイバネットシステム(株)、サンユー電子(株)、シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株)、シグマアルドリッチジャパン(株)、四国計測工業(株)、システム・インスツルメンツ(株)、柴田科学(株)、ジャパンハイテック(株)、純正化学(株)、シリシジャパン(株)、(株)スギヤマゲン、(株)セントラル科学貿易、ダイセル化学工業(株)、田中貴金属工業(株)、WDB(株)、(株)中央理化、(株)デジタルデータマネジメント、(株)テンキューブ研究所、(株)東京インスツルメンツ、(株)東京化学同人、東京化成工業(株)、東京工業大学 男女共同参画事業、東京書籍(株)、トムソン・ロイター・プロフェッショナル(株)、ナカライテック(株)、名古屋工業大学 大型設備基盤センター、日機装(株)、(社)日本化学会 学術情報部、(社)日本技術士会 化学部会、日本電子(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、ノーザンサイエンスコンサルティング(株)、(株)バイオクロマト、(株)バキューブランドサイエントフィックジャパン、パシフィック横浜、浜松ホトニクス(株)、ピー・エー・エス(株)、ヒドラス化学(株)、(株)ヒューリンクス、富士シリシア化学(株)、富士通(株)、マイルストーンゼネラル(株)、丸善(株)卸営業部、丸善出版(株)、(株)美和製作所、山善(株)、ユサコ(株)、(株)UNICO、(株)ユニソク、(財)横浜観光コンベンション・ビューロー、(株)ライトストーン、(株)リガク、

(株)菱化システム、(株)レッチェ、(株)ワイエムシー、ワイリー・ジャパン、和光純薬工業(株)、渡辺化学工業(株)

企業の活発な研究活動紹介

主催：(社)日本化学会会員委員会

日時：3月26日(土)～28日(月) 10:00-17:00

会場：13号館

参加費：無料

会員委員会では、年会参加者(特に学生会員)へ本会法人正会員の概要・研究の内容を知ってもらう機会を設けるため、付設展示場内に企業紹介ブースを設置いたします。

出展社：(1月20日現在)

旭化成(株)、味の素(株)、(株)アドバンテージ・サイエンス、宇部興産(株)、クミアイ化学工業(株)、住友化学(株)、星光PMC(株)、ダイセル化学工業(株)、ダイソー(株)、日産化学工業(株)、(社)日本化学会 会員委員会、日本化学工業(株)、(社)日本化学工業協会、日本合成化学工業(株)、東レ(株)、有機合成薬品工業(株)

世界化学年記念シンポジウム 「化学が未来をリードする条件は？」

主催：日本化学会

日時：3月26日(土) 13:30-16:45

会場：S3 会場 セレストホール (16号館)

世界化学年を記念して春季年会の初日に公開シンポジウムを開催する。世界化学年の統一テーマ“Chemistry—our life, our future”を受けて、「化学が未来をリードする条件は？」と題して、野依良治理理事長と小林喜光三菱ケミカルホールディングス社長に基調講演をお願いする。その中で、学と産それぞれの立場から、我が国の化学をより深化させ、社会のニーズに応じてゆくために何が必要であるのか、幅広い視点からの問題提起をしていただく。さらにその後、数名の当会論説委員を加えてパネル討論を行い、問題をさらに掘りさげ、それらの解決策を模索する。

プログラム

- 開会挨拶 岩澤康裕(日本化学会会長)
 - 基調講演①：小林喜光(世界化学年日本委員会委員、三菱ケミカル HD 社長)
座長：千葉泰久(日本化学会副会長、IYC 委員会委員長)
 - 基調講演②：野依良治(世界化学年日本委員会委員長、理化学研究所理事長)
座長：巽 和行(IUPAC 副会長、名古屋大学教授)
 - パネル討論会「テーマ：化学が未来をリードする条件は？」
パネリスト：野依良治、小林喜光、橋本和仁(本会論説委員、東京大学教授)、小出五郎(本会論説委員、科学ジャーナリスト)、岩瀬公一(本会論説委員、内閣府大臣官房審議官)
司会：村井真二(本会論説委員長、奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長)
 - 閉会挨拶 千葉泰久(日本化学会副会長、IYC 委員会委員長)
- 参加費：無料。
申込方法：「世界化学年記念シンポジウム」参加希望と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX・E-mailを明記のうえ、E-mailまたはFAXにて下記宛お申し込み下さい。当日参加も可能です。
問合せ先：(社)日本化学会 学術情報部 田中
電話(03)3292-6165 FAX(03)3292-6319
E-mail: tanaka@chemistry.or.jp

2011世界化学年記念 「第5回化学遺産市民公開講座」

企画：日本化学会化学遺産委員会

主催：日本化学会・化学史学会

共催(予定)：日本化学工業協会・化学技術戦略推進機構

日時：3月26日(土) 10:30-16:45

会場：SF 会場 23号館 311 教室

化学遺産委員会では、平成21年度より化学関連の学術遺産あるいは化学技術・産業遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な資料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し第1回として6件を認定いたしました。平成22年度は新たに化学遺産認定候補を一般市民や会員諸氏より公募するとともに、委員会として認定候補に相応しいと思われるものを選び、対象候補十数件を調査いたしました。今回の市民公開講座では、世界化学年を記念して、化学史に関する映画を上映するほか第2回化学遺産として認定された下記内容を中心にご紹介いたします。お誘いあわせの上ふってご参加下さい。

プログラム

(総合司会：若林文高委員)

開会挨拶・事業紹介 (10:30-10:40)

「日本化学会化学遺産委員会事業のいま、これから」

(化学遺産委員会委員長/岡山理大教授・京大名譽) 植村 榮
化学史映像編1 (担当：新井和孝委員・内田正夫委員)

①映像「化学語り部：芝 哲夫先生を偲んで」(10:40-11:05)

②映画「洪庵と1000人の若者たち」(11:05-12:00)

基調講演「日本はなぜ出遅れたか、どうして追いついたか」(13:05-13:45)

(座長：伊藤 卓委員) (化学遺産委員会顧問/東工大名譽) 山本明夫

化学史映像編2 (担当：新井和孝委員・内田正夫委員) (13:45-14:45)

③映画「さくら さくら：サムライ化学者高峰讓吉の生涯」(ダイジェスト版)

④映画「アンビション (志)：化学者池田菊苗」(ダイジェスト版)

⑤記録映画「セルロイドの話」

講演1 (座長：内田正夫委員)

「認定化学遺産：日本最初の化学講義録一冊百舎密書 (ボンベ化学書)と幕末の化学者川本幸民の遺業」(15:00-15:40) (青山学院女子短大教授) 八耳俊文

講演2 (座長：亀山哲也委員)

「認定化学遺産：日本の板ガラス工業の発祥とその歴史的意義」(15:40-16:10) (化学遺産委員会委員/日本化学会フェロー) 田島慶三

講演3 (座長：新井和孝委員)

「認定化学遺産：日本のセルロイド工業の発祥とその歴史的意義」(16:10-16:40) (ダイセル化学工業(株)研究統括部調査・情報グループリーダー) 吉兼正能

閉会挨拶 (16:40-16:45) (化学遺産委員会顧問/(株)トクヤマ相談役) 三浦 勇一

参加費：無料。講演会資料代 (予備)：1,000円 (当日徴収)。

申込方法：化学遺産市民公開講座参加希望と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX、E-mailを明記しE-mailで下記宛お申し込み下さい。当日参加もできます。

問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5

(社)日本化学会 企画部 太田

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: oota@chemistry.or.jp

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2011

主催：日本化学会・Wiley-VCH

日時：3月26日(土) 13:40-14:30

会場：F5会場 (1F5-29) 20号館 20-310

日本の化学関係8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌“The Chemical Record”が、2011年より日本化学会の雑誌としてリニューアルすることとなりました。Wiley-VCHとの本格的な提携によりインパクトファクターも着実に向上しており、山本編集委員長による新しい編集体制の下、本年も年会時にTCR Lectureを開催いたしますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

プログラム

13:40-14:30 Non-Covalent Synthesis of Complex Supramolecular Systems, Prof. Dr. E. W. Meijer (Institute for Complex Molecular Systems, Eindhoven Univ. of Technology)

参加費：無料 (年会登録者に限る)

申込方法：事前申込み不要です。当日直接会場にお越し下さい。

問合せ先：(社)日本化学会 学術情報部 TCR 係

電話(03)3292-6165 FAX(03)3292-6319

シングルセル解析による 生命科学の新潮流

日時：3月27日(日)

会場：S6会場 23号館 203教室

生命科学分野の解析技術はここ10年で飛躍的な進歩を遂げている。これらの先端技術を駆使することによって未知なる細胞機能が明らかになってきた。その中から、細胞個々に特性があることが見いだされ、シングルセルの生物学の必要性が指摘されている。

本企画では、シングルセルバイオロジーに必要な、化学、工学、生物学等の幅広い分野の先生方に、シングルセル解析技術の現状と展望、さらにはアウトプットの側面から、シングルセル解析による医学、生物学研究の進展に関して報告していただく(シングルサーベイヤ研究会共催)。

プログラム

13:30-13:50 はじめに 竹山春子 (早大理工)

13:50-14:20 神原秀記 ((株)日立製作所中央研究所)

14:20-14:50 浜地 格 (京大院工)

14:50-15:20 植田充美 (京大院農)

15:20-15:50 民谷栄一 (阪大院工)

15:50-16:20 松永 是 (東農工大)

16:30-16:50 落谷孝広 (国立がん研究センター研究所)

16:50-17:10 岸裕 幸 (富山大院医)

17:10-17:30 竹山春子 (早大理工)

詳細は <http://kanto.chemistry.or.jp/menu/ev/singlecell.html> をご覧下さい。

高次実在分子システムのための 分子科学：実験と理論による 機能発現の分子論的理解

日時：3月27日(日)

会場：S5会場 23号館 201教室

分子系→超分子系→分子集合系→組織系→生命系という物質の階層構造に呼応して化学のフロンティアは高次側へと拡がり、複雑系の機能の解明と創出に向かっている。生体で代表される高い機能を発現する高次複雑系では、複数の分子が協調的に連動することで極めて効率よく精緻な機能が実現されており、この高次複雑系機能のメカニズムを分子論的に解明することは21世紀の化学が担う大きな命題である。

そこで、高次分子システムに対する研究の現状とその展望を論じる先端ウォッチングを提案する。ここでは分子科学とその関連分野で発達した計測技術と素過程の研究手法論による高次実在分子システムの測定成果や新たな方法論と、実在分子系の高次機能を解明するための最新の分子科学理論を概観し、複数の分子が協調的に機能している分子システムを理解するための分子科学の基礎を討論する。

プログラム

13:00-13:10 趣旨説明 (東工大資源研) 藤井正明

13:10-13:30 気相とバルクをつなぐ大サイズクラスターの分光研究 (東北大院理) 藤井朱鳥

13:30-13:50 水素結合ネットワークのダイナミクス (九大院理) 関谷 博

13:50-14:10 生体分子の気相分光法の開発と分子認識機構へのアプローチ (東工大資源研) 藤井正明

14:10-14:30 大分子・ナノクラスターの構造特異的化学反应の解明に向けて—イオン移動度質量分析の可能性 (東北大院理) 美齊津文典

14:45-15:05 新しい非線形分光で明らかになる界面の水 (理研) 田原太平

15:05-15:25 界面分光の理論と実験—協力的体制が拓く界面化学 (東北大院理) 森田明弘

15:25-15:45 プロブ顕微鏡で液体構造を観る (神戸大院理) 大西 洋

15:45-16:05 量子化学と統計力学に立脚した高次系の分子理論 (京大院工) 佐藤啓文

16:05-16:25 一分子分光によるタンパク質分子へのアプローチ
(東工大物理) 松下道雄
16:40-17:00 構造変化が生み出すタンパク質機能：理論からのアプローチ
(東大分生研) 北尾彰朗
17:00-17:20 タンパク質内エネルギー散逸の時空間マッピング
(阪大院理) 水谷泰久
17:20-17:40 タンパク質反応ダイナミクスの分子シミュレーション
(京大院理) 林 重彦
17:40-18:00 P型イオンポンプによる能動輸送機構のシミュレーション解析(理研) 杉田有治
18:00-18:30 総合討論

企業で活躍する博士たち

主催：(社)日本化学会産学交流委員会産学人材交流 WG
日時：3月27日(日) 13:00-17:30
会場：SA 会場 23号館 303教室

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在籍中に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場が少ないのが実情です。また、産においても博士の活用が敷居が高い企業はまだあります。日本化学会では、平成19年度より、化学系学生を対象に「博士セミナー」を開催し、産業界をもっと知ってもらおう試みを行ってきました。今回は、企業の中で活躍する博士たちを紹介することで、より一層産業界での博士の活躍の場を増やしたいと考えております。

なお、セミナーの対象者は、博士課程在籍者、博士課程進学希望の修士課程在籍者、ポスドク研究者及び博士セミナーに関心をお持ちの産学官の皆様とともに、博士の採用を検討している企業関係の方を考えています。

プログラム

13:00-13:30 博士研究者に対する期待(産学人材交流 WG 主査, 東レ) 長瀬公一
13:40-14:40 企業研究の醍醐味(福井工大教授(元旭化成)) 府川伊三郎
14:50-17:20 企業の博士研究者による研究開発事例紹介とパネル討論
司会：出口尚安(産学人材交流 WG 委員, 富士フィルム)
パネリスト：(味の素) 黒澤 渉, (住友化学) クナッパ カロス, (ブリヂストン) 大月正珠, (東レ) 滝澤聡子, (富士フィルム) 谷口雅彦
17:20-17:30 総括(産学人材交流 WG 副主査, 住化技術情報センター) 佐々木俊夫

参加費：無料。
申込方法：事前登録不要。当日会場にて受付。
問合せ：(社)日本化学会 企画部 松原
101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

第18回化学教育フォーラム 実験を主体とした普及交流活動 ～様々な立場からの提案～

主催：日本化学会化学教育協議会
日時：3月27日(日) 13:00-16:30
会場：SB 会場 23号館 304教室

実験を主体とした化学の普及交流活動を行っている、様々な立場の団体やグループの実践を踏まえた提案から、その問題点と展望を共有し、今後の普及交流活動のあるべき姿を探りたい。そこで、NPO法人、大学の活動、企業や企業をリタイアされた方が活動している団体などがどのような理念に基づき、活動・運営を行っているのかご講演いただく。質疑応答では聴講者からの質問を受け活発な意見交換を行いたい。

プログラム

1. 開会の挨拶 (化学教育協議会議長) 下井 守

< 13:05-14:35 >

2. 科学技術振興のための教育改革支援計画(SSISS)～その狙い・現状・展望～(SSISS 理事長・東京大学名誉教授) 大木道則
3. 自然ふしぎ体験理科実験教室(東京学芸大学) 鎌田正裕
4. 教育委員会と連携しよう！～授業案を体験型にするチャレンジ～(NPO 法人体験型科学教育研究所理事・事務局長) 古川 和

< 14:50-15:50 >

5. 日立理科クラブの紹介(NPO 法人日立理科クラブ代表理事) 佐藤一男
6. 東レの出前実験教室(マーケティング企画室) 金森麻理子

< 16:00-16:30 >

7. 質疑応答 司会(普及・交流委員会副委員長) 若林文高
 8. 閉会の挨拶(普及・交流委員会委員長) 齊藤幸一
- 参加費：無料。
申込方法：事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ：(社)日本化学会 企画部 大倉
101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6164 FAX(03)3292-6318
E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

第28回化学クラブ研究発表会

主催：日本化学会関東支部

後援：文部科学省

日時：3月28日(月) 9:40-17:20(予定)

会場：S1・S2 会場 10号館(10-41/10-42 教室)

当支部では化学振興事業の一環として、中学校・高等学校の化学クラブや理科クラブの化学に関係ある研究成果の発表の場として、化学クラブ研究発表会を開催しており、今回、第28回を開催します。

参加費：無料。

申込方法：事前登録不要。当日会場にて受付。

問合せ：(社)日本化学会 企画部 美園・田中
101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: kanto@chemistry.or.jp

2011世界化学年記念 JSTさきがけ研究領域 合同シンポジウム 「人類の危機に挑む研究開発： 光と太陽エネルギー」

主催：科学技術振興機構(JST)・日本化学会・日本化学連合
共催(予定)：日本化学工業協会・化学技術戦略推進機構
日時：3月28日(月) 10:00-20:00
会場：S3 会場 16館 セレストホール

太陽光エネルギーなど自然再生エネルギーの本格的な利用が喫緊の課題となっている。平成20～21年度発足した科学技術振興機構さきがけ研究領域「光の利用と物質材料・生命機能」「太陽光と光電変換機能」「光エネルギーと物質変換」では、光と太陽エネルギーを共通項として、人類にとって最大の危機とされる資源・エネルギー、環境問題に積極的に取り組んでいる。このうち「光エネルギーと物質変換」研究領域では、昨年3月の第90春季年会で第1回国際シンポジウム「光エネルギーと物質変換：人工光合成の未来」を開催し、日本化学会会員を中心に500名を超える参加者を集め、この問題への関心の高さが示され好評を博した。そこで第2回目となる今回は、化学関連のさきがけ3研究領域共同のシンポジウムを企画した。具体的には、①2010年ノーベル化学賞受賞者による特別メッセージ、②3研究領域を含む広く若手研究者へのメッセージとしての基調講演、③「光エネルギーと物質変換」研究領域における世界最先端研究者による特別講演、④研究領域の研究総括による研究領域の紹介、⑤3研究領域研究者による研究の現状と将来展望の研究発表・討論、で構成する。これにより、さきがけ3研究領域の研究の現状と研究課題の重要性及び研究領域への参画を春季年会参加若手研究者に広く情報発信し、3研究領域を含む化学関連研究者への科学的刺激とさらなる

る研究推進に資する。

プログラム

【総合司会】(科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域研究総括/首都大東京戦略研究セ) 井上晴夫

10:00-10:10 開会挨拶 (科学技術振興機構理事長) 北澤宏一

10:10-10:40 基調講演【座長:井上晴夫】

若手研究者に必要なセンス:光触媒研究を例として(東京理科大学長) 藤嶋 昭

10:40-11:50 JST さきがけ研究領域紹介・研究発表1「光の利用と物質材料・生命機能」

○研究領域紹介(10分)

(研究総括/奈良先端科学技術大学院物質創成科学特任教授) 増原 宏

○研究発表

①単一分子蛍光計測で探るキラリティーの本質(北大電子科学研) 深港 豪

②プラズモニック物質の波動関数の光制御とその応用(早大理工) 井村考平

③分子間相対配置の操作による光化学過程の能動的制御:人工光捕集系の構築(首都大東京院都市環境) 高木慎介

④プロトクロロフィド還元酵素を利用した新規ニトロゲナーゼ創出を目指して(名大院生命農学) 藤田祐一

13:00-13:15 特別メッセージ

「演題未定」(2010 ノーベル化学賞受賞者・米国パデュー大特別教授) 根岸英一

13:15-13:55 特別講演【座長:井上晴夫】

Conjugated Polyelectrolytes: Structure, Properties and Applications (Univ. of Florida, Prof.) Kirk S. Schanze

13:55-14:25 JST さきがけ事業紹介

(科学技術振興機構イノベーション推進本部さきがけ担当調査役) 原口亮治

14:25-14:35 新研究領域紹介

藻類・水圏微生物の機能解明と制御によるバイオエネルギー創出のための基盤技術の創出(研究総括/東京農工大理事・副学長) 松永 是

14:50-16:15 JST さきがけ研究領域紹介・研究発表2「太陽光と光電変換機能」

○研究領域紹介(10分)(研究総括/九大院生命体工学教授) 早瀬修二

○研究発表

①過渡吸収分光法による高分子太陽電池の光電変換機構の解明(京大院工) 大北英生

②PbS量子ドットの多重励起子生成評価(電通大先進理工) 沈 青

③カルコパイライト型リン化合物を用いた太陽電池一状態図と結晶成長(京大院工) 野瀬嘉太郎

④シリコン結晶の融液成長メカニズムの解明:太陽電池用シリコン多結晶インゴットの高品質化へ向けて(東北大金属材料研) 藤原航三

⑤色素増感太陽電池の高効率化研究(物質・材料研次世代太陽電池セ) 柳田真利

16:15-17:40 JST さきがけ研究領域紹介・研究発表3「光エネルギーと物質変換」

○研究領域紹介(10分)(研究総括/首都大東京戦略セ教授) 井上晴夫

○研究発表

①色素増感系光触媒を水素生成系として用いる2段階励起型可視光水分解(北大触媒化学研究セ) 阿部 竜

②光機能性巨大 π 共役系化合物の創製(京大院理) 荒谷直樹

③[Fe]-ヒドロゲナーゼの活性中心鉄錯体の生合成(マックスプランク陸生微生物学研) 嶋 誠吾

④光合成によるエネルギー変換と水の酸化機構(愛媛大無細胞生命科学工学研究セ) 杉浦美羽

⑤局在プラズモンで誘起する非線形光化学(北大院理) 坪井泰之

17:40-17:45 閉会挨拶(平成22~23年度日本化学会会長/東大名譽・電通大院情報理工教授) 岩澤康裕

18:00-20:00 ポスターセッション 於:神奈川大学横浜キャンパス体育館 上記さきがけ研究者14名のほか、3領域研究者40数名によるポスター発表。発表者のプログラムは春季年会プログラムをご覧下さい。

※簡単な飲物・軽食等を準備しミキサー風を実施予定。参加費1,000円(当日ポスター会場にてお支払い下さい。)

シンポジウム参加費・講演資料代:無料。

申込方法:URL (<http://www.chem-conv.jst.go.jp/index.html>) またはE-mailにてお申し込み下さい。E-mailで申込みの場合にはJST合同シンポジウム参加希望と明記し、①氏名・②所属・職位

③連絡先住所(〒)・電話番号・FAX、E-mail、④ポスターセッションの参加の有無、を明記しお申し込み下さい。当日参加も可能です。なお、本シンポジウムのみ参加希望の場合には春季年会の

参加登録は不要です。

申込先:192-0397 八王子市南大沢1-1-1 首都大学東京 プロジェクト研究棟302号室 科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域事務所 浅野正江

電話(042)653-3415 FAX(042)653-3416

E-mail: masano@chem-conv.jst.go.jp

科学技術振興機構(JST)研究者支援事業「さきがけ」説明会を13:55~14:25まで同会場にて行います。公募に関する資料をお渡しいたしますので、お問い合わせの上ご参加下さい。

日英シンポジウム2011

主催:日本化学会 将来構想委員会

共催:英国王立化学会(RSC)

日時:3月28日(月) 9:10-17:40

会場:SE会場23号館310教室

ケミカルバイオロジーの潮流には2つの大きな流れがある。1つは天然物化学や有機合成化学を主体とした生理活性に着目した流れであり、もう一方はイメージングプローブ作製による可視化解析である。これらの2つの流れは、近年のノーベル化学賞受賞対象研究に見られるように深いつながりがある。今回のシンポジウムでは、英国と日本において化学を突破口とした生物学研究を展開している若手講演者にお話しいただき、化学研究が生物学研究に与えるインパクトについて紹介する。また、本シンポジウムは日本化学会の国際交流活動の一環として英国王立化学会と共同で開催され、2010年7月にロンドンにおいて開催された共同シンポジウムに続いて開催される企画である。今回は英国から4名の招待講演者を招き、日本側の5名とともに講演を行う。

プログラム

Chair: Kazuya Kikuchi

09:10-09:20 Opening Remarks Yasuhiro Iwasawa, President, CSJ

09:20-09:30 Richard Pike, CEO, RSC

Chair: Hiroshi Murakami

09:30-10:10 Gregory L. Challis, Warwick University, "Novel Catalytic Chemistry in Bioactive Natural Product Biosynthesis"

Chair: Gregory L. Challis

10:10-10:50 Hiroshi Murakami, The University of Tokyo, "Development of Non-standard Peptide Inhibitors Using flexible *in Vitro* Translation System"

10:50-11:20 Intermission

Chair: Kazushi Kinbara

11:20-12:00 Dominic Campopiano, University of Edinburgh,

"Sphingolipid Biosynthesis in Man and Microbes"

Chair: Dominic Campopiano

12:00-12:40 Kazushi Kinbara, Tohoku University, "Development of Supramolecular Tools for Regulation of Biological Events"

12:40-13:40 Lunch Time

Chair: Nicholas J Westwood

13:40-14:20 Motonari Uesugi, Kyoto University,

"Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy"

Chair: Motonari Uesugi

14:20-15:00 Nicholas J Westwood, University of St Andrews,

"Recent Advances in Chemical Genetics"

15:00-15:30 Intermission

Chair: Rebecca Goss

15:30-16:10 Masayuki Inoue, The University of Tokyo,

"Total Synthesis and Biological Evaluation of Polytheonamide B"

Chair: Masayuki Inoue

16:10-16:50 Rebecca Goss, University of East Anglia,

"Elucidating and Exploiting Biosynthesis"

Chair: Rebecca Goss

16:50-17:30 Kazuya Kikuchi, Osaka University, "Molecular Imaging Probes with Tunable Switches for *in Vivo* Applications"

17:30-17:40 Closing Remarks

参加費:無料(年会参加登録者に限る)。

申込方法:当日受付。

申込先:(社)日本化学会 企画部

101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: ihida@chemistry.or.jp

未来を拓く社会からのメッセージ ～男女が共に生きる取り組みとは～

主催：日本化学会男女共同参画推進委員会
日時：3月28日(月) 13:30-17:15
会場：SA会場(23号館303教室)

男女共同参画社会の実現を目指して日本化学会ではこれまでに10回のシンポジウムを開催するとともに提言を行ってきました。国際社会と比較して一層の努力が必要であるものの、日本においても男女共同参画社会実現に向けた組織と意識の変化が進んでいるのも事実です。

本年は、マリー・キュリーノーベル化学賞受賞100年記念となる年です。本シンポジウムでは、これまでの女性の社会進出を振り返りつつ、男女共同参画が進む組織の運営とその実施経験から学び、今後の展望を共有します。特に、これから社会へ飛翔する若手の人生選択においてヒントとなる知識や価値観の提供を目指します。

プログラム

13:30- 開会挨拶 日本化学会会長 岩澤康裕
13:35- 趣旨説明 シンポジウム実行委員長 宍戸 厚

【基調講演】

13:40- 「一人一人が生きる男女共同参画」
文部科学省生涯学習政策局局長 板東久美子

【依頼講演】

14:30- 「資生堂リサーチセンターにおける男女共同参画の取り組み」(株)資生堂リサーチセンター新横浜 石野章博
14:55- 「女性研究者として社会ではたらく～私のチャレンジ～」
NTT(株)物性科学基礎研究所 河西奈保子
15:20- 「生き活きと仕事、しなやかに子育て～その時々に応じて選択するワーク・ライフ・バランス」
東京ガス(株)人事部人材開発室 西村かよ子
15:45- 「人材戦略としての女性社員の活躍推進」
三井化学(株)人事部 田中千穂
16:10- 「大学の男女共同参画状況～東工大の場合/マルチタスク生活～私の場合」東京工業大学産学連携推進本部 林ゆう子
16:35- 「花王(株)におけるイコール・パートナーシップ推進活動について」花王(株)人材開発部門人材開発部 座間美都子
17:00- 閉会挨拶 男女共同参画推進委員会委員長 佐々木政子

参加費：無料。
申込方法：当日受付。
問合せ先：日本化学会 企画部 井樋田
101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: danjo@chemistry.or.jp
懇親会：17:15～(無料、事前申込み不要)

第2回日中若手化学者フォーラム

主催：日本化学会
共催：中国化学会
日時：3月28日(月) 9:00-17:00
会場：S4会場20号館205教室

2010年第27回中国化学会年會において開催された第1回日中若手化学者フォーラムに引き続き、第2回目のフォーラムを日本化学会第91春季年會において開催する。次世代の化学者がお互いの理解を深め個人的な関係を築き、さらに将来の日中ネットワークの基盤をつくるために、特定のテーマの下に少人数でフォーラムを行う。今回のテーマは“Chemistry for Energy Conversion and Storage”とする。

プログラム

日本講演者：池田 茂(大阪大学)
犬飼潤治(山梨大学)
駒場慎一(東京理科大学)
野瀬嘉太郎(京都大学)
原田慈久(東京大学)
山田淳夫(東京大学)
中国講演者：Lin Zhuang (Wuhan University)
Yongyao Xia (Fudan University)
Peng Wang (Changchun Institute of Applied Chemistry)
Yan Liu (Peking University)
Luhua Jiang (Dalian Institute of Chemical Physics)
Bin Ren (Xiamen University)

上記、講演者による討論を開催。

参加：聴講可能(年會参加登録者に限る)。
申込方法：当日受付。
問合せ先：(社)日本化学会 企画部 井樋田
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: ihida@chemistry.or.jp